

宇和島市・

日振島探訪記

佐伯 市野瀬 仁

六月十八日このハガキを手にした。佐伯史談会本年度第二回の県外旅行案内である。日振島と聞くと歴史に関心のある者ならば好奇心をそえられる島であろう。昭和五十一年NHK大河ドラマの「風と雲と虹」で知られた、承平・天慶の乱の立役者平将門と藤原純友の活躍で記憶に新しい。

七月五日(土) はれ

今回もまた天気予報は、ぐずつきもようであった。いつものことながら私達は、清田先生が半年前から企画したスケジュールののって動き旅行を楽しんでいけばよい。ありがたいことだ。参加者三七名(男二四、女子一三)。佐伯発——宿毛間のフェリーは朝が早かったので、乗船時間の三時間は船室で寝ている人が多かった。

日振島研修旅行の御案内

- 海賊大將藤原純友の根據地日振島。瀬原山から見える島。純友次將佐伯景本の佐伯院發艦にも関係する。磯釣りのメッカ・断崖・海蝕・岩礁等爽快な自然美も静しめよう。
- 宇和島では、宇和島城・伊達博物館・天鼓園・凸凹寺・和霊神社など。  
佐伯惟定と藤堂高虎にから去地、佐伯橋、佐伯町などなつかしいではありませんか。

期日 7月5日 宿毛行フェリー乗場 6.30集合7.00%  
宇和島站と見守を借上の現地バス・全和泊  
520発便で日振島・16.40発便で宇和島へ  
7月6日 22.00発宇和島運輸で別府へ。  
7月7日 4.00別府着、解散。

直ぐ佐伯へお帰りの方は  
切符取りとめなどお任せ  
します。

会費 15,000円  
人員 40名  
申込法  
表記青田池  
お電話が早くて  
良いのですが。  
なるべくおまめ  
てお申込ひな。

宿毛から宇和島まで、国道五六号線の一時間四十分は、バスのガイド嬢の説明を聞きながら野山の風景を楽しんで行く。この地は佐伯と同じ地層が走り、同じリヤス式海岸でハマチや真珠の養殖を見たり、稚木林や竹林・蜜柑島を見てもそう変わったところ

ろはない。それでも、「植林してないナア」とか、「木槿の花が多かったよ」とか、「水田をよく作っているねえ」等と話しているのを耳にした。

「皆様、ここ城辺町はもと延暦寺の荘園でありました。津島町は獅子文六の奥

様の出身地で戦争中疎開されていました  
おり「てんやわんや」「大番」の小説が  
みのつた所であります。井上靖の『闘牛』  
もこゝを舞台に書かれていますが、変化  
の少い田舎町のこととてトッパ話が生  
れたのでしょう。最近新聞紙上に賑わし  
ている宇和島市長の汚職問題にも市民の  
批難もあまり聞かれますアッケラカンの態  
でございます。

今昔の話題をふりまいて人を笑わせる。さ  
すがガイド嬢堂にいったものである。

宇和島市内見学

宇和島城 文禄四年（一五九五）藤堂高  
虎は宇和郡七万石の領主となり慶長元年よ  
り六年間この城を築城した。後、奥州仙台  
の伊達政宗の長男秀宗が入封して十万石の  
居城となった。宇和島天守閣は三重三層の  
独立式のもので、現在の姿は昭和三七年に  
改修した。戦争のなかった江戸期の時代相  
をあらわして実戦的のものではなく、領主  
の威容を示した優美なものである。こんな  
とき、城にくわしい会員小野英治氏の説明  
が非常に役立つ。

伊予の宇和島御船で来やれ

伊達は十万石鶴島城跡

白天天守があの青空に

宇和島小唄の一筋である。城は市街にあり、  
佐伯の城山のように高くなく八十餘の平城  
であるから気易く行けて、市民の憩い場と  
して親しまれている。城を背にして一同の  
記念写真を撮る。

いったい、奥州仙台の六二万石を擁する  
伊達政宗の長男秀宗が、なにが故にこの辺  
隔の地に十万石の城主として入封しなくて  
はならなかったのか。そして治政はスムー  
ズに行なわれたのであろうか。それは、戦  
国の世によくある、秀吉につづく家康の政  
略の果てであり、入封した初代の時すでに  
血生臭いお家騒動があったのだ。城の形は  
美しくとも、人の織りなす歴史の渦は複雑  
怪奇なドラマを秘めている。

一行は急な石段を両手を広げて下りて行  
く

和霊神社 宇和島城の血生臭いお家騒動  
の中心人物こそ和霊神社の祭神である。仙  
台藩主伊達政宗は若冠秀宗の将来を案じて、  
最も信頼にたる忠臣、山家清兵衛公頼を補

佐役として宇和島に下らせた。執政総奉行  
としての清兵衛は悪政による惨憺たる状態  
を見るや、心血を注いで民政にこれを務め  
た。その甲斐あって見事復興した。かくし  
て清兵衛の徳望は生き神さまの如く仰がれ  
た。一方、軍政担当の桜田玄蕃はこれを妬  
み、大阪城の石垣工事の問題を機に一味の  
者を指揮して山家清兵衛を暗殺させたので  
ある。清兵衛時に年四三才。

この間、日振島の庄屋清家久左衛門は桜  
田玄蕃の奸謀を山家清兵衛に告げ、陰に陽  
に力となつたのもまことに興味深い。和霊  
神社は四国でもゆびおりの大社で、清兵衛  
公の御霊をなごめ祀る七月二三・二四日の  
大祭は、二十万余の人々がお参りする大衆  
神として有名。しかし不幸にも昭和二十年  
七月米軍の爆撃を受け、社殿全部灰燼に帰  
したが、信者の赤誠により、旧に増し荘厳  
な社殿が建立された。

神社は城近くの丸之内にあって、山家清  
兵衛公頼の邸宅跡であったことも意義深い。

天救園 第七代藩主宗紀はなは二代の宗利の  
つくった浜御殿の南よりの一角に、隠居所

として文久二年（一八六二）南御殿をつく

った。翌年から三年の歳月をへて池水回遊式の優美な名園を成した。（国指定名勝）

伊達家の家紋にちなんだ十数種類の竹が植えられている外、池をまたぐ「上り藤」

「白藤」は有名。ちなみに天赦園の名は伊達政宗公の時より引用したものである。宗紀は八代宗城、九代宗徳の背後にあって維

新の大業に一役かった人物で、西郷隆盛、大村益次郎、高野長英等勤王の志士と会した場所でもある。宗紀は維新四賢公の一人

として明治二二年（一八八九）百歳の天寿を全うした。大正十一年陛下が皇太子のとき天赦園にお成りになった記念館もある。

宇和島の名に示す如く、寛文十二年（一六七二）第二代藩主宗利が、この地一帯の海を埋立てた跡に天赦園を造成したものである。

あやめ揃えて天赦の園は  
藤の紫綾にも染めて

忘れがたないあの旅心  
宇和島小唄の三節である。

伊達博物館 七代藩主伊達宗紀の着用し

た「春日野鏡」は竹にすずめの裝飾金物が打たれて豪壮で華麗な鏡である。八代藩主伊達宗城も賢侯のきこえが高く、松平慶永山内豊信、島津久光らとともに活躍したため、中央との交流もしげく貴重な文化財が残されている。また、勝海舟との交友を語る書翰も珍しい。よく教科書に載せられている秀吉の肖像画の原図もある。豊臣秀吉の馬じるし干成瓢は現存するものこれ一個だけという。宇和島市は市制五十周年を記念してこの博物館を建設した。史料に歴史の重みをずっしりと感ぜざるを得なかった。今まで現地見学をしてきたばかりだったから、比較的展示物が理解しやすかった。観覧中「佐伯市もこんな博物館はできないものだろうか」という声を耳にして私は「ウー」とうなるような感情が走った。

「春日野鏡」は竹にすずめの裝飾金物が打たれて豪壮で華麗な鏡である。八代藩主伊達宗城も賢侯のきこえが高く、松平慶永山内豊信、島津久光らとともに活躍したため、中央との交流もしげく貴重な文化財が残されている。また、勝海舟との交友を語る書翰も珍しい。よく教科書に載せられている秀吉の肖像画の原図もある。豊臣秀吉の馬じるし干成瓢は現存するものこれ一個だけという。宇和島市は市制五十周年を記念してこの博物館を建設した。史料に歴史の重みをずっしりと感ぜざるを得なかった。今まで現地見学をしてきたばかりだったから、比較的展示物が理解しやすかった。観覧中「佐伯市もこんな博物館はできないものだろうか」という声を耳にして私は「ウー」とうなるような感情が走った。

「性は宗教なり、哲学なり、性は道徳なり、科学なり、性は生なり、先代久保盛丸神主はここに悟道し、大生殖宗を開基せり、……未成年者、遊山気分、酒気のある方は入場おことわりいたします。館内禁煙、撮影禁止……」

多賀神社宮司 久保凸凹丸  
凸凹寺二代目法主  
(是本名也)

まぎれもなく古今東西の性に関する展示物が三階の建物に充滿している。その数は万単位のものであろう。これまで徹底した展示物と法主の信念に対して性について再考せねばなるまい。見学を終えて、展示館から出てくる人々の顔には入館した時の笑いから、狐にでもつままれたような顔をして出てくるように見えた。イヤハヤ世間は深く広いものである。

観覧を終えて、石人を背に腰かけている高木会長、古藤田太氏等の記念写真を撮った。どうぞ長生しますようにと願いをこめて。心配した雨はどこえやら暑い陽差が照りつけている。

凸凹寺 いやこれはすばらしい。韓国か中国にしか見られない石人が立並んでいるではないか。この宇和島市にどうしてこんなものがあるのだろうか。先頭の方から大きな笑声が聞えてくる。  
拜観券の裏の凸凹寺縁起に次のように書

「性は宗教なり、哲学なり、性は道徳なり、科学なり、性は生なり、先代久保盛丸神主はここに悟道し、大生殖宗を開基せり、……未成年者、遊山気分、酒気のある方は入場おことわりいたします。館内禁煙、撮影禁止……」

多賀神社宮司 久保凸凹丸  
凸凹寺二代目法主  
(是本名也)

まぎれもなく古今東西の性に関する展示物が三階の建物に充滿している。その数は万単位のものであろう。これまで徹底した展示物と法主の信念に対して性について再考せねばなるまい。見学を終えて、展示館から出てくる人々の顔には入館した時の笑いから、狐にでもつままれたような顔をして出てくるように見えた。イヤハヤ世間は深く広いものである。

観覧を終えて、石人を背に腰かけている高木会長、古藤田太氏等の記念写真を撮った。どうぞ長生しますようにと願いをこめて。心配した雨はどこえやら暑い陽差が照りつけている。

凸凹寺 いやこれはすばらしい。韓国か中国にしか見られない石人が立並んでいるではないか。この宇和島市にどうしてこんなものがあるのだろうか。先頭の方から大きな笑声が聞えてくる。  
拜観券の裏の凸凹寺縁起に次のように書

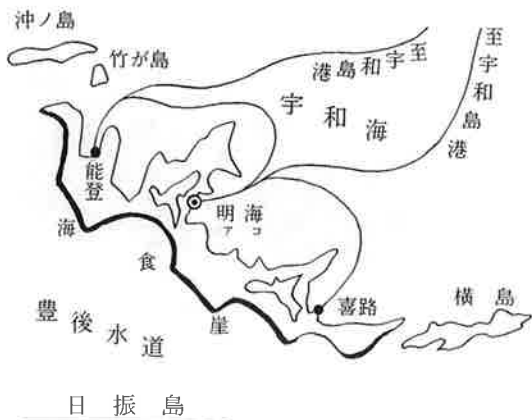
「性は宗教なり、哲学なり、性は道徳なり、科学なり、性は生なり、先代久保盛丸神主はここに悟道し、大生殖宗を開基せり、……未成年者、遊山気分、酒気のある方は入場おことわりいたします。館内禁煙、撮影禁止……」

多賀神社宮司 久保凸凹丸  
凸凹寺二代目法主  
(是本名也)

まぎれもなく古今東西の性に関する展示物が三階の建物に充滿している。その数は万単位のものであろう。これまで徹底した展示物と法主の信念に対して性について再考せねばなるまい。見学を終えて、展示館から出てくる人々の顔には入館した時の笑いから、狐にでもつままれたような顔をして出てくるように見えた。イヤハヤ世間は深く広いものである。

観覧を終えて、石人を背に腰かけている高木会長、古藤田太氏等の記念写真を撮った。どうぞ長生しますようにと願いをこめて。心配した雨はどこえやら暑い陽差が照りつけている。

宇和島国際ホテル　ひと風呂浴びて後、カメラを持って屋上に出て宇和島市街を眺めた。三方山に囲れてどこに十萬石の土地があるのだろうか。宇和米で有名な南予の穀物地帯はあの山の彼方にあるに違いない。さて今日見学した箇所はどこだろうと追ってみた。ホテルが中央にあるのか、あまり時間をかけずに見当がついた。それにして



も、佐伯町とか佐伯橋はどこだろうか。予

土線・予讃線の終着駅の宇和島駅は眼下に黒ずんで見えた。二十年前に植えたというワシントンヤの街路樹が、駅前からポツンポツンと見られ城下町の貫録を示していた。

すぐ目の前のピヤガーデンで若い男女がジョッキをかたむけて語り合っている。四方の風景はそれぞれ違った顔を夕日を浴びていた。

### 七月六日（日）はれ

早朝、独り屋上に出て市街を見ながらいつものように十分間の体操をした。遠方の和霊神社に一人の男が体操をしているのが見えた。朝だナァと思った。今日も天気は大丈夫だ。

日振島 「純友は名門藤原家の出ではあったが、不遇をかこっていた。伊予椽として下向していたが、その職をとかれると帰京せず、みずから海賊団の首領に身を投じた。承平六年（九三六）について、九三九年には東国の平将門の挙兵に呼应するごとく、ふたたびたち、南海・山陽

両道の略奪をほしいままにした。一時は九州の大宰府をも占領したが、のちやぶられて舟でひそかに伊予に逃げかえったところを、警固使、橋遠保に捕えられ、獄中<sup>たちばなどうす</sup>で死んだと伝えられる。」

（愛媛県の歴史散歩）

サァ、今日は夢の島日振島行きだ。国際ホテルから港まで歩いて十五分。定員五七名、三二・三三トンの「はやかぜ号」に乗船、九時宇和島港を出帆した。定期旅客船運航時刻表を船員さんからもらってみると、日振島航路は七月二十日から八月三十一日まで、八便あることが分った。六月から八月にかけて海は最も穏な由、とろけたような海面をきって船は進む。

佐伯近海と同じようにハマチの養殖場が続く。真珠の養殖場はハマチ養殖場に汚濁されてだんだん港を離れた半島に追いやられていくのだそうだ。佐伯近海より水がきれいで広く、養殖規模も大きいのではないだろうか。カメラのシャッターをきる音が聞える。

五十分で船は日振島の中央にあたる明海<sup>あ</sup>

の港に着いた。日振島は宇和海最大の島で、



城ヶ森（純友の館跡）  
左方 山の頂上が狼煙場であった  
のうしげば

高さ一九五mの山もあり、面積三・九km<sup>2</sup>。海音寺潮五郎は「日振島を俯瞰すると、やせた鳥が羽をひろげて飛んだ形、いや朽ちてぼろぼろに欠けた鳥の骨を横たえたような形」と形容している。東南に喜路、中央に明海、北西に能登の三つがほぼ同じ位の距離に位置し、宇和島港との定期船連絡港となっている。

今日の案内役は清田先生と関係のある横浜雄幸という小学校の先生だ。陸に上ると左手の海に突出た山が狼煙場であったという。日振島の地名の由来は神武天皇が東征の途中夜となり、海が荒れて航行の目標を失ったので、喜路高森山の附近で赤い火が振られて合図したという伝説がある。

先年「風と雲と虹」の大河ドラマのロケのため山麓から頂上に至るまで道は整備されて、かなりの部分舗装されている。それに説明板・標式は見学者にっこうがよい。港には「日振島の観光コース」や、「南海の反逆児藤原純友の乱」の説明板がある。山の登り口

に純友ゆかりの「みなかわの井戸」を見た。コンクリートの石段を登りつめると平地に「純友籠居の跡」として高さ三メートル余の石碑が立っている。築込勘蔵さんがまめに記録している。

#### 純友籠居の碑文

昭和十三年十一月二日予備少尉を得て帰郷し親しく茲に藤原純友の遺跡を訪い遙に思いを于有余年の古に馳す其の賊名を免るること能はざりしも喜ばざるは論

なしと雖も扁舟を帥ひて活躍したる剛壯敢為の行動海国男子としてエライ男だという感もまた稍起さざるを得ず乃ち一碑を建立して記念とする。

昭和十四年五月 山下亀三郎

この地に立って見て私も山下という人の気持は十分わかるような気がした。

城に詳しい小野英治氏は、これはあきらかに掘切りだ、これは今次戦争中の遮蔽壕だろうと機敏に動が働く。頂上に登りつめると遠方は霞んで九州は見えない。案内者の横浜先生は、「あの島を豊後の間と呼んでいます。視界がすっきりしないのですがこの方向が佐伯地方でしょう」と。

一人の婦人が「ここから佐伯に海底電線が通っていたのではありません」と横浜先生にたずねた。

「そうです、この島は今次大戦中要塞でしたので、佐伯の海軍司令部に通ずる海底電線があったのです」と先生は答えた。

婦人の主人か、知人が海軍さんであったのだろうか。思いつめたような面持で聞いてかけていた。

地図を見ると、日振島は宇和海の中心をなす宇和島港と佐田岬とはほぼ同距離にあり、

半島の蔭にあって、瀬戸内海を荒し廻るのに恰好の位置にある。岩と木と海しかない根拠地では略奪せねば人の住める島ではないようにみえる。

一番遅くたって下山すると、これは意外、海園寺という浄土宗の寺があり、老松と榎の巨木の蔭に墓地がある。その中に、ひとさわ高く立派な五輪塔が七基ほど立っている。寛永・天和（江戸初期）の年号が読みとれた。宇和島城のお家騒動に一役かった大庄屋清家久左衛門はこの庄屋だったのか。してみれば、この島は宇和海一の大きい島だけに政治的・戦略的にも意味を持っていたのだ。平安初期を少し下った純友以来、江戸期を通して魚を取り、島地を開発して狭隘ながら人がかなり住んでいたのだ。実はこの島の住民は芋と鯛で暮らしていたが、木造船から鋼船に代ってから宇和島行きが頻繁となった。その結果、人々は島を去り過疎の地になってしまった。それからあらぬか大きな鼠が繁殖した。そこで、多数の猫を放ったが猫よりも大きく、強い鼠の大集団のため減少するどころか猫が逃げまどう始末となった。

この話は今夏休みに知りあった大洲市に住む佐川敬先生から聞いたもので、NHKのテレビ放送もされたものという。

乗船港の関係で、明海から能登まで、山道を六km程歩かねばならない。

観光客の憩いの場としてしつらえた施設のある海岸で昼食をとった。暑い護岸の石に坐り、強い陽に照りつけられながら弁当を開いた。日頃からつきあつていない隣の人と、なにくれとなく語り始めると急になじみが深くなる。同じ目的の歴史を探ぐる同好者だからであろう。

会員のうちの最高齢八四才になる深沢常吉さんは元気がよい。何十年前からか三十分の体操をしつづけた人だけに、いつも先頭をきつて山道を歩く。大部分の人達は蔭で休憩をとったが、私達四人は風のない蔭よりもつと涼しい所まで思って休まず歩いた。私は雨降りにもはける大きな靴をはいて来た。ところが、六kmの山坂道を急いで歩くと、靴の中で足が無理な運動をするため疲れるとおびたゞしい。足の脛が筋張って痙攣をおこしそうだ。目の前を八四才の深沢さんが「健康には野菜を食べて運

動するのが一番ですよ」といいながら歩くのに、三十才ほど若い者が足が痛いといつて休まれもしない。

豊予海峡の荒波にけずられた海食崖の見える風通しのよい所に休憩して涼をとっていると後続部隊が来た。四、五名の人と共に浜に下り写真を撮った。縞模様のはいった、平たくて丸い石を記念に拾った。

まだ能登は遠い。

軸丸さん、染矢さんと私、三人はずっと主力部隊より遅れて何回となく、豊後の間を写真に撮った。日振島にただ一ヶ所あったという水田跡や、観光客の捨てた空き缶が小さな入江に集まったカラフルな光景を見下して写真に撮った。

能登の港に一軒の飲食店がある。案内者横浜先生の姉さんの店ということを知った。汗はかき、喉は渇き疲労した体に「雨が降りそいで気持がいい。こんなのを慈雨というのだろう。人々は店に入れかわりたちかわり冷たい飲物を求めた。

今度の旅に持ちつづけた一つの課題が私にはあった。それは大分県、とくに海岸部と伊予とのかわりあいである。同じリヤ

ス式海岸の地形に住んで、豊予海峡と豊後

水道をはさんで向かいあっている所に、人々の交流や風土に類似点があるに違いない。例えば豊後の間をはじめ宇和島市に佐伯町や佐伯橋があったり、佐賀関から大分市にかけての二一七号線を昔、伊予街道といったり、大正年間、佐伯駅前<sup>の</sup>塩田は伊予人の生業が多かったし、宇和写真館を始め佐伯に住みついている人はずいぶん多い。歴史的に、年代別に両者の移動や影響力はどちらの強いのだろうか。またそれはどんな理由からだろうか。私はそれを今度の旅で少しでも知っていた。

それで横浜さんや姉さんにいろいろと話しかけてみた。

「日振島は戸数六四戸、小中学生四三名、観光客は年間一万五千・うち大部分が若者の海水浴。藤原純友について見学に来る人はあまり聞かない。島の人は純友についてそれほど関心は持ちません。日振島では大阪との関係が一番、ついで大分県ですがなかでも佐賀関との関係が多いようです。私の兄は、大分県庁に勤めていました。職業安定所の所長をしていましたが、すでに

退職して今鶴崎に住んでいます。」

こう語る両人の言葉や語感には、宮崎県人や熊本県人よりもずっと大分県人に似ているのではないか。同じ陸つづきの熊本県でも九州山脈を背にした人々よりも豊予海峡や豊後水道の海をへだて、向いあっている伊予人の方に交流も深かったであろうし、類似点も多いのではなかるか。こうした一日や二日の団体での歴史探訪では土地の人とゆっくり話す機会を求めるのが無理である。たゞ漠然と感じとれる程度のものである。研究のためにはまた別の方法をとらねばなるまい。

能登から宇和島港行きは満員であった。船は四時三七分に出帆した。宇和島市の「ときわ食堂」で夕食をとった。別府行きの二二時の出帆までにはかなりの時間がある。みんな三三五五自由行動をとったが、私達は銭湯に入った。

宇和島港を二二時に出帆した。

別府行きの船中では、皆さんぐっすり寝こんでいる。午前四時別府港に着いた。朝霧がかかって人影もなく北欧のある小さな港にでもついたようだった。

参考資料

愛媛県の歴史散歩 山川出版社  
和霊宮由来 和霊神社社務所発行  
日振島と藤原純友 人物往来社  
各見学所の菓

宇和島・日振島を訪ねて

弥生町 古藤田 太

○ 竹多き天赦の池をめぐりけり

古き茶亭も草繁りあう

○ 韓国とイスラムの国の性の神

祀る多賀社の庭のざわめき

○ 純友の昔たずねんツワブキの

道を登れば広き海見ゆ

○ 雨さけて寄りくる人はそれぞれに

花を持ちおり日振能登浜